



Title	会章デザイン募集経過報告
Author(s)	
Citation	デザイン理論. 1968, 7, p. 124-125
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/52479
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

会章デザイン募集経過報告



意匠学会10周年記念事業の一環として行われた会章デザインの募集は9月20日締切られ、応募総数158点の中から審査の結果、亀田季一氏（京都工芸繊維大学学生）の作品が入賞し、関西意匠学会の会章として広く使用されることになった。表彰式は11月8日の10周年記念大会の席上行われ、亀田氏に賞状と賞金3万円が贈られる。

関西意匠学会は今まで会章を持たなかったが、10周年を迎えるにあたり学会にふさわしい会章を制定してはとの提案が昨年10月21日の役員会の席上行われ、大多数の賛成を得て直ちに実行に移された。会章デザインの制定には種々の方法が考えられたが、結局会員並に関係学校学生の間からコンペ形式で募集することになり、6月中旬関係者に募集要項が配られた。

当初締切日が9月10日であったが、応募数僅少のため締切日を9月20日に延期したところ、会員と学生合せて83人から158点にのぼる力作が集った。

審査は9月21日、奥田広幸（O.Q.D. デザインコーナー） 笠間嘉一郎（日吉） 金田民夫（同大） 河本敦夫（事務局） 篠崎 槟（伏見） 中西 徹（京阪電鉄） 樋口 治（京工大） 三浦 伝（成安） 各審査員によって行われ、第1次予選（17点通過） 第2次予選（4点通過） 第3次予選を経て、接戦の末亀田氏の作品が選ばれた。次点は上原政一氏の作品。

入賞作品は更に作者、審査員、それに会員の金野弘氏の協力によって修正が

加えられ、結局図のようなデザインが決定した。この会章はただちに各種印刷物に使用されるほか、会員の胸を飾るバッジが制作され、大会々場で希望者に実費頒布される予定である。

作者、亀田氏のデザイン主旨：

「アイデアを練る時に、学会のシンボルマークだということで、落ちついた、どっしりしたものをということを基本にした。その上で、デザインを中心にした集まりだということを表わそうと考えた。その結果これに落ち着いたというわけだ。

真中の「D」は「デザイン」を表わし、それを囲む5角形は、デザインを中心とした人々の集りを表わしている。また、それらの人々が、デザインを囲み、デザインを支えている状態をも表わしているのである。」

(柳原 記)

彫塑材料
合成樹脂
成型材料

珪石膏は……

井上顔料株式会社

三十三間堂電停前 電 ⑤⑥ 3142・6236